

プロ棋士へ18歳の覚悟

浦川玲瑛さん(松山市) 将棋「奨励会」合格

将棋のプロ棋士養成機関である日本将棋連盟の「奨励会」入会試験に、松山市の浦川玲瑛さん(18)が合格した。年齢制限が迫る「いばらの道」だが、あえて「人生懸ける」と力を込める。

ワイドえひめ WIDE EHIME

迫る年齢制限 「いばらの道」人生懸ける

奨励会は浦川さんの勝敗に応じて昇級、降級が、原則21歳までに初級していき、三段リーグで1、2位を取ることでプロ棋士となる。強制退会。年齢制限があるため、小学生で受験するケースが多い。

浦川さんは、浦川さんは、規定により3級からの挑戦。まずは21歳になる2028年10月までに初段到達が第一関門で、師匠の野田敏三七段とともに対局に臨む。

桑原小学校5年の頃、放課後子ども教室で将棋に興味を持ち、6年生から同市天山1丁目の松山将棋センターに通い始めた。当時から「プロになりたい」という思いはあったが、奨励会試験には挑戦せずに教室で仲間たちと研さんを積んできた。

本格的にプロを意識したのは松山学院高校2年だった24年11月ごろ。高校卒業後に自分になりたい姿を考える中で、「小学生の頃の中村涼香(中村涼香)を諦められない。挑戦したい」と、高校3年生での受験を決めた。しかし、昨年の試験では2次試験で3連敗し不合格。

今年8月14、16日に大阪府高槻市の関西将棋会館であった入会試験では、受験者同士で対局する1次試験を4勝1敗で突破。現役の奨励会員と戦う2次試験では3局目に白星を挙げ、合格を勝ち取った。2度目の挑戦でつかみ取った合格を、「うれしいよりほっとした気持ちが強かった」と振り返る。

センターで指導する児島有一郎さん(59)は「年齢的にも厳しい挑戦で、いばらの道」としながらも「強くなるのに近道はない。一歩ずつ努力していったほしい」とエールを送った。

9月20日から関西将棋会館で奨励会の対局が始まる。浦川さんは「目の前の一局を大切に勝ちを積み上げていく。自分を信じて頑張りたい」と意気込んだ。

プロ棋士を目指し、「奨励会」試験に合格した浦川さん

